

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900470
法人名	(有)レインボープラス
事業所名	グループホーム虹の森
所在地	〒798-2101 愛媛県北宇和郡松野町大字松丸551番地1
自己評価作成日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 1 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>敷地内に小規模多機能型居宅介護と介護付有料老人ホームがあり、行事や緊急時に協力し合い、また利用者同士の交流を深めている。 事業所内には季節の飾りつけや利用者の作人を飾り、明るい雰囲気の中で利用者と職員が楽しく会話をしながら、利用者本位のケアを行うよう努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は町内唯一のグループホームとして10年前に開設され、その後小規模多機能型居宅介護事業所を併設され、勉強会や行事等は合同で行っている。町内在住の職員が多いため地域情報を得て行事に積極的に参加し、地域との交流を図っている。地元の新鮮な野菜を使い栄養バランスのとれた美味しい食事を提供するようにしている。運営推進会議には地域住民が多く参加し、出された意見は運営に反映している。地域の協力を得ながら、利用者は住み慣れた地域で安心して生活できるよう、全職員が一つになって一人ひとりに温もりある支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム虹の森

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

宮崎 由貴子

評価完了日

平成 24年 12月 18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家庭的な雰囲気の中にマンネリ化した介護にならないよう、「愛と真心と思いやりの心」でサポートするよう努めている。	
			(外部評価) 5年前に法人代表が作った理念は、見やすい場所に掲示し、利用者や来訪者にも周知されている。月1回の職員会で話し合い、常に共有している。今年から、理念をもとにした具体的な年間目標を立てて、日々実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域に住んでいる職員が多く、地域の行事などの情報収集ができています。事業所の行事に、地域の方々の参加を呼びかけし取り組んでいくよう努めている。また、散歩などした際に、あいさつを行うなど心がけている。	
			(外部評価) 町内在住の職員が多く、地域の情報が得られやすい環境にある。町のふれあいセンターの行事に参加し、事業所が開催する夕涼み会などのイベントには近所の方が毎年参加してくれている。秋祭りには神輿が来てくれ、フラダンスなどのボランティアも受け入れて、利用者は地域とつながりを持ちながら暮らしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 納涼祭やクリスマス会などに、地域のボランティアの方々に来ていただいている。また、行事のチラシを地域の方に配布し、参加を呼びかけるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事や日々の様子を写真に残し、見ていただいたり、ご家族や地域の方々に意見を頂きながら情報交換を行い、サービス向上に努めている。	議事録は、質問者の役職等や、実際に運営に活かされた意見がわかるようにするなど、よりきめ細やかな記録をして、会議の運営に活かされることを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月に1回開催し、地域住民代表や町担当者、利用者の家族に参加してもらい、職員は毎回交替で出席している。参加者からは具体的な意見が出されて運営に反映している。参加できなかった利用者の家族には議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 直面した課題について連絡を密にし、相談させて頂き、助言をしていただいている。また、研修会などの情報を提供していただき、可能な限り参加させていただいている。	
			(外部評価) 町担当者とは運営推進会議への参加以外にも、相談事など日頃から緊密に連携している。地域包括支援センターが中心となる町内の介護事業所が参加する地域ネットワーク会議にも参加し、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会等で身体的拘束について学習を重ね正しく理解し、利用者様の安全の確保に職員全員で努めている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて勉強会を行うなど、正しく理解し実践できるよう努めている。日中は玄関を施錠しておらず、利用者が自由に生活できるように全職員で見守りを徹底している。言葉による拘束もしないよう職員同士で注意し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会等で虐待について、事例をあげて研修をし、防止に努めている。 また、日々行ってしまいがちな言語による虐待については、その都度注意するよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者様の家族と連絡を取り合い、必要に応じて対応するよう心がけている。可能な限り研修会等に参加する機会を持つよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) パンフレットや重要事項説明書を用いて説明をし、また事業所見学をしていただき、納得された上で契約を行っている。 解約時は必ず、利用者や家族と話し合いをし、双方納得の上で契約の手続きをするように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時やケアプラン作成時などに家族と話す機会を設けており、どんなことでも言ってもらえるように努めている。 出された意見等は、職員全員で共有し、職員会等で検討し合うよう努めている。  (外部評価) 管理者とケアマネジャーは、家族が面会に来た際には積極的に声かけし、意見や要望を聞くよう努めている。また、面会の少ない家族にも日頃から連絡を密にとり、利用者の状況を報告し、出された意見は検討している。年に3～4回ホームだよりと一緒に利用者の写真を送付し、事業所のイベントにも参加してもらえるよう案内している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会議があり代表者も参加して話し合いを行っている。職員からの意見や提案を代表者に伝え、より良い事業所運営に反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 月1回の職員会議と法人の全体会議には、全職員が参加している。職員会議ではそれぞれが意見を出し合い、検討されてサービスに反映されている。法人の全体会議には代表者も出席し、配置転換や研修など運営について話し合いがあり、職員が向上心を持って働けるよう配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の努力や実績、勤務状況により給与の見直しを行っている。また、ヘルパー2級や介護福祉士等の資格に応じて手当を支給するなど、職員が向上心を持って働くよう心がけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月の職員会において、学習会を行い、認知症ケアについて職員全員で学習している。また、可能な限り職員に応じた外部研修を選出し、ケアの向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣に同業者が少なく、交流する機会がないが、系列事業所（小規模多機能、介護付有料老人ホーム、デイサービス、サービス付き高齢者住宅）があり、毎月1回学習会を行うよう努めている。また、地域ネットワーク会議に参加し、情報交換、学習会を通じてサービスの質の向上に努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の状況を家族等に聞き、ご本人ができる事、困っている事等を把握したり、ご自宅に伺い顔見知りになり、スムーズにケアができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等が不安に思っている事や要望を聞き、可能な限り意に沿えるようなケアを行うよう努めている。また、何事にも報告・相談をしていただけるような関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人や家族と「今必要なケア」について話し合いをし、他のサービスの情報提供も行いながら、私たちができるケアサービスができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の立場に立ち、負担にならないよう注意しながら、お手伝いなどをお願いし、利用者と職員と一緒に過ごす時間を大切にするよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 近況報告や「事業所だより」、写真などを定期的を送付し、利用者の様子をこまめにお知らせしたり、ご家族からもできるだけ本人に電話や面会を行ってもらえるよう、お願いをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行事の案内を家族だけでなく親戚や知人にも行い、来ていただくよう努めている。家族との関係が疎遠にならないよう面会の依頼をするなど努めている。また、遠方の家族とは電話で話ができるよう環境づくりに努めている。  (外部評価) 家族だけでなく親戚や知人等馴染みの人にも事業所の行事案内を送り、関係継続の支援をしている。馴染みの人と電話で話しをしたり、家族と一緒に一時帰宅したり、受診や外食をする利用者もいる。併設する有料老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所の利用者との新しい馴染みの関係も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) できるだけ本人の希望に添えるような席決めや配列を心がけている。また、気の合う者同士、ソファや畳に座り話ができる環境づくりに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今まではサービス利用終了後、本人や家族と連絡を取ることが無かった。今後は必要に応じて契約終了後も支援ができるようにしたい。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思の疎通が難しい利用者が多いため、日々関わる中で思いを汲み取るように努めている。知り得た事はミーティングなどで職員全員で共有するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者との日々の関わりの中で、表情や様子を注視しながら思いや意向の把握に努め、家族からも情報を得ている。職員ごとに把握した情報は月1回のミーティングや毎日の申し送りで共有し、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や近所の方、以前に利用していた介護サービス関係者から情報を提供していただき、職員全員で情報を共有するよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 事業所での生活の流れを把握し、有する力の範囲内でのお手伝いやレクリエーションを勧めるよう努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネが中心となり、定期的に話し合いの場を設け、ケアのあり方について検討している。また、本人やその家族の思いを反映し、その人に合った介護計画を作成するよう努めている。	
			(外部評価) 利用者ごとの担当職員は半年ごとに交代し、介護計画には全職員が関わるようにしている。利用者ごとのファイルの表紙には介護計画を貼り付けて、常に目標が確認できるようになっている。わかりやすい書式を用いて計画に沿ったチェックを行い、月末に評価している。3～6か月ごとに計画を見直し、家族に説明し希望も確認して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 定期的に職員全員でカンファレンスをし、日々のケアの中で気づいたことや注意する点等を共有し、今後のケアの実践に役立てるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の置かれている状況に応じて、可能な限り対応するよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域包括支援センターに協力・相談に乗っていただいたり、ボランティアの方に要請し行事に参加していただき、楽しい時間を作るよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医と密に連携が図れている。病状の変化にも安心 して相談できる。状態によっては、専門医を紹介して いただいている。受診時、必要に応じて家族の付き添 いの協力をお願いしている。	
			(外部評価) 利用者と家族の希望により、協力医療機関がかかりつ け医になっている。定期受診には管理者が同行し、必 要時は家族に同行をお願いすることもある。皮膚科等 町外の専門医に受診することもある。事業所には看護 師の配置もあり、医療連携体制も取れており、利用者 の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常生活の様子や変化などの情報を介護・看護職員が 共有し相談するよう努めている。また夜間や緊急時、 電話等で連絡・相談ができるよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時、情報提供を行い、連絡を密にするよう努め ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族と話し合いの場を設け、事業所でできる事を説明 し、家族の希望を聞きながら方針を決定するよう努め ている。また、必要に応じて主治医と相談し対応する よう努めている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に説明している が、これまで重度化した場合は、医療機関や他の施設 に移っており、看取りの経験はない。利用者の状況の 変化に応じて主治医に相談し、家族とも話し合いの機 会を設けている。看取りに関する外部研修にも参加し ている。	終末期の対応について、家族参加の勉強会を行ったり 職員研修をするなど、一層の理解を深める取組みが望 みたい。利用者と家族が希望する終末期を住み慣れた 地域で安心して過ごせるよう、地域全体の取組みに事 業所として積極的に関わりたい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会において、全員で応急処置方法や救急連絡方法等を学習し、緊急時の対応を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防職員の方に来ていただき、避難訓練や消火訓練を行っている。また、地域の防災訓練に参加し、地域との協力体制を築くよう努めている。  (外部評価) 避難訓練を行ない、通報装置の使用法や消火器の設置場所などが周知されていない等課題が明らかになった。地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議の委員である消防団長の助言を受けて、事業所の間取りや利用者の状況が一目でわかるようボードに記載している。敷地内にコンテナ倉庫があり備蓄品を準備している。	課題については早急に対策を講じ、次回の運営推進会議において報告することを望みたい。今後も地域の協力を得ながら職員の不安が少しでも解消できるよう訓練を積み重ね、災害に備えることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの声かけは、周りに聞こえないようにしたり、扉を開けっ放しにしないよう配慮して行っている。入浴はプライバシーを侵害しないようマンツーマン対応している。また、利用者やその家族の個人情報保護遵守を職員に徹底している。  (外部評価) 利用者の人格を尊重した対応について研修を行い、職員が正しく理解するよう努めている。誇りやプライバシーを損ねないように、利用者に合わせた適切な対応や声かけができるよう、管理者は職員にきめ細かく指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を尊重し、説明方法や言葉かけの方法を工夫し、自己決定しやすいように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの状況を把握し、散歩や食べたいものを作るなど行いながら、希望に沿った関わりができるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 男性の利用者には、毎朝髭剃りの声かけや支援を行うようにしている。女性の利用者に対して化粧品を準備する等支援している。また、定期的に近所の理髪店へ行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 敷地内の有料老人ホームで調理しているため、一緒に準備することは出来ないが、食器の後片付けや台拭きなど無理のないよう声掛けを行っている。職員と一緒に食事をし、会話をしながら楽しい食事の時間を過ごせるよう努めている。	
			(外部評価) 食事は併設する有料老人ホームで調理されており、地元でとれた新鮮な野菜が使われている。調理が得意な職員が多く、汁ものや季節のメニューなどは事業所で作られている。きざみ食等利用者の状態に合わせた対応もできている。法人内のイベントでは、他事業所の利用者と一緒に食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分量を毎日チェックし、チェックシートに記入し、職員全員で把握するよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを目標に設定し、職員全員で声かけや誘導するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレでの排泄を基本とし、時間で誘導するよう努めている。最終トイレの時間、排便状態を毎日の申し送り時に行い把握するよう努めている。利用者の様子や表情を観察しトイレサインを見逃さないよう心がけている。	
			(外部評価) 利用者ごとに排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。現在おむつを使用している利用者はいない。夜間は睡眠を優先しながら、個々に合った衛生用品を使用するなど工夫している。排便の状態も職員間で気を付けて細かくチェックし、健康管理に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状態を毎日の申し送りで確認し、便秘傾向にある利用者に対して、水分補給や腹部マッサージを行い自然な排便ができるよう努めている。また、状態により便秘薬で調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日などは決まっているが、可能な限り1対1対応を行うよう努めている。声かけやタイミングを工夫しながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。	
			(外部評価) 入浴は週3回を基本として、利用者の希望に柔軟に対応している。必要に応じて2人体制で介助を行い、安全に入浴ができるよう努めている。入浴が苦手な利用者にも、タイミングや声かけを工夫しながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけフロアで過ごせるよう声かけやレクリエーションを行い、昼夜逆転にならないよう努めている。また、天気の良い日は、事業所前の広場で外気浴をしたり、周辺を散歩するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員全員で利用者一人ひとりの薬の把握・理解をし、服薬介助をしている。また服薬時は必ず一人ひとり手渡し、もしくは介助している。 服薬後の状態の観察をし、記録を記入するよう指導を行っている。薬が変更になった時は、必ず職員全員に申し送りをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者に無理のないよう、洗濯干し・取り込み・たたみ、食器の片づけ、掃除等の声かけを行っている。また、行事やレクを通じて、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に玄関先や敷地内で日光浴や外気浴をするよう努めている。また可能な限り、ドライブに出かけ季節の花を見学したりしている。	
			(外部評価) 敷地は十分な広さがあり、利用者は事業所の周りを散歩したり外気浴をして気分転換をしている。春には花見やドライブも計画している。家族と一緒に外食をしたり、一時帰宅をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在、金銭を自分で行っている利用者はいない。家族と相談し、必要時は事業所が立替えを行うようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が希望された場合、職員が家族に連絡をし、利用者に代わり話ができるよう支援をしている。事業所のお便りや写真を送付し、事業所での生活状況を通知するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使用するイスに氏名を貼ったり、トイレの出入口に張り紙をしたりして認識できるよう工夫をしている。フロアの壁面に季節を感じられる飾りをしたり、利用者が制作した作品を掲示している。</p> <p>(外部評価) 建物の1階にある事業所は、玄関を入るとすぐ食堂兼居間があり、自然光で明るく落ち着いた雰囲気があり、利用者は思い思いの場所で居心地よく過ごしている。トイレや浴室も清潔に保たれ、気持ちよく生活できている。清掃は利用者も掃除機をかけるなど手伝っている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファや食卓で気の合う者同士が話ができる環境づくりに努めている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時、本人や家族と相談し、可能な限り自宅で使用していた家具や布団等を持参していただいている。衣類の片づけ等も、可能な限り利用者本人が行うことができるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には利用者の名前や目印がつけられ、安心して生活できるよう配慮がある。各居室にはベッドが備え付けられ、自宅から着替えや布団等が持ち込まれている。室温調節や換気も適切にされている。職員と一緒に掃除をする利用者もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自室が分からない人、トイレの場所が分からない人については、入口に名前を書いて貼り付ける等の工夫をしている。廊下やフロアには必要最小限の物を置き、転倒防止に努めている。</p>	